

我が家の アイドル



田邊 伶央くん(2歳)
(旭 町)

笑顔の可愛い伶央くんです。
(ママより)

高柳 雅ちゃん(1歳)
(中 央)

踊りの好きなみーちゃんです。
(ママより)



このコーナーへ載せるイラスト
をお待ちしています。どしどし
応募してください。

- サイズ はがき大
- 応募先 役場総務課

故郷

FURUSATO を想う

東京かがみいし会みなさんに、
ふるさとの思い出話や、
東京かがみいし会について
話していただくコーナーです。



東京かがみいし会

波多野 幸枝さん(埼玉県)

(笠石区出身)

戦後60年が経ちました。
王者の暮らしからドン底に
突き落とされ、外地から引
揚げて来た家族がたどり着
いたのは母の里、鏡石村で
した。

そして今、首都圏に住み、
三人の子も家庭人となり、夫
と2人の静かな明け暮れ、ど
の窓からも視野いっぱい緑
で気に入っています。
いつしか書のプロになり、

――最後に一句――
「父の星 母星 いずくだ茶豆」

笠石の山の中には親子9人
の命をつなぐ薪や、井戸や、
少しの畑がありました。
冬には背丈以上の雪が積
り、吹きすさぶ木枯らしの中
を裸足に近い状態で、長女の
私を先頭に雪に埋まり、雪を
かき分け通学しました。それ
は私の『おしん時代』でした。
笠石に眠る父母の御墓に手
を合わせる時、私は12歳の
少女になります。

人様に教え始めて30余年で
す。書道教室も、大人は面
倒、子どもは血圧が上がる
とか言いますが、私は、大
人は精神修養、お子たちか
らはエネルギーを貰うこと
にしています。
それもこれも、雨にも負
けずのおしん時代のお陰で
す。今、血圧は正常、歯も
総自歯、追肥がきいている
そうで、世の中公平ですね。
鏡石の大地で培った健康体
に感謝しつつ、有終の美を
飾りたいと思っております。